



® 平成 30 年 7 月 4 日 (水)

No. 14723 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会
東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)
郵便番号 104-0061
[電話] 03-3535-3052 [FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4
(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆成長戦略に必要な経営理論《知財版》⑤2… (1)

☆知的財産研修会(意匠の理論と実務)…… (7)

☆フラッシュ(特許庁人事異動)…………… (8)

☆知財高裁開廷一覧…………… (8)

成長戦略に必要な経営理論《知財版》⑤2

知財人財における“戦略的思考”のケース スタディ (その4:経営に関するセオリー)

正林国際特許商標事務所
所長弁理士 正林 真之

1. はじめに

ー“収入”と“財産”をめぐる論争ー

今はもう、既に死語となっている「玉の輿に乗る」あるいは「逆タマ」という言葉があるが、前者は金持ちの男性の家に女性が嫁ぐことを意味し、後者はそれとは逆に、お金持ちの家の娘をお嫁さんにもらうこと(狭義には「お婿さんに入ること」)を言った

ものだ。つまり、お金持ちと結婚すれば、あっという間に自分もお金持ちファミリーの一員となり、裕福な暮らしが約束される、というものだ。ある意味では、現代版のシンデレラストーリーのようなものだと言ってもよいだろう。

けれども、「ここで言う“お金持ち”って、いったい何?」と、正確な定義を改めて尋ねると、その



特許業務法人 三枝国際特許事務所

大阪オフィス

〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番1号 北浜TNKビル
TEL: 06-6203-0941(代) FAX: 06-6222-1068 e-mail: mail@saegusa-pat.co.jp

社員・副所長 中野 睦子*
社員・副所長 菱田 高弘*

化学・バイオ部

宮川 直之
河合 永文*
北野 善基*
難波 泰明
八木 祥次
森垣 善行
野村 千澄
松野 陽介
岩澤 朋之*

森嶋 正樹
幸 芳*
淀谷 幸平*
栗本 匡容*
兼本 伸昭*
西橋 毅
内藤 勝志
竹本 有貴

機械・電気部

鈴木 由充
鶴 寛
奥山 美保
新田 研太
植田 慎吾

商標・意匠部

松本 康伸*
青木 寛史
小川 雅加美*
中川 博司

知財情報室

関 仁士

SAEGUSA & PARTNERS

代表社員・所長 林 雅仁*
社員・相談役 三枝 英二*

東京オフィス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビル9F
TEL: 03-5511-2855 FAX: 03-5511-2857 e-mail: tokyo@saegusa-pat.co.jp

社員・副所長・東京オフィス所長 齋藤 健治
社員・副所長 岩井 智子

化学・バイオ部

藤田 雅史
鴻 宗義

商標・意匠部

田上 英二
田中 麻美



*特定侵害訴訟代理可能

www.saegusa-pat.co.jp

中身というのは人それぞれであるということがある。極端な例を言ってしまうと、それは果たして「収入が多い人」なのか、それとも「財産が多い人」なのかということである。もちろん、その両方が備わっているのであればそれに越したことはないが、極端な話、「財産は多いが、収入が少ない男性」と「収入は多いものの、殆ど貯金がない(財産がない)男性」とが居て、そのどちらかと結婚することができる状況に置かれたとして、昔のいわゆる“玉の輿”を目指す女性は、そのどちらと結婚したらよいのかということである。

今更ここで言うまでもないが、二人同時に結婚してしまうのは“重婚罪”というれっきとした犯罪なので、両方同時に結婚することはできず、どちらかを選ばねばならない。いずれか一方と結婚すれば、他方とは結婚できない。収入の多い男性を選ぶのか、それとも財産の多いほうを選ぶのか。収入か、それとも財産か、という岐路に立たされているわけである。あなただったら、どうするのだろうか?!

実は、これは意外にも古くて新しい論争であり、以前から言われているようでいて、結局は決着らしい決着のついていない論争でもある。

2. 収入か、それとも財産か?!

この設例の場合、それぞれの男性についてのパーソナリティその他については、まったく問題にしていない。これはある種の思考実験なのであるから、議論的を絞り込んで単純化するためにも、余計な要素は付け加えないほうが良い。

そうしたうえで、あえて聞こうと思うのだが、もしあなたがお金を貸すとしたら、どちらに貸すのであろうか。

こうして聞いてみると、先ほどの玉の輿の設例とは異なり、特に男性の場合には、話がより具体的かつ身近になってくるのがわかるであろう。それは、“玉の輿”などというのは、特に一般の男性においては、およそ考えたことも無い、であるからこそ想像もつかないようなものであるのに対し、お金の貸し借りというのは、誰でも一度は経験したことがあり、かつ、これから体験するようなものだからである。何人かの方は、それこそ、借金を巡る“失敗”をしたこともあるかもしれない。そう、お金を貸したがゆえに友情を失うことになったとか、親戚付き合いが途端に悪くなったとか、そういったことである。

ここで、収入が高いのに貯金がないというのは浪

費癖がある証拠だから、貸すのはちょっと考えものとかいうのは、先に述べた「この設例の場合、…パーソナリティその他については、まったく問題にしていない。これはある種の思考実験なのであるから、議論的を絞り込んで単純化するためにも、余計な要素は付け加えないほうが良い。」という方針に反する。けれども実際には、ここまで読めば実感されたように、身近な問題になればなるほど、自分にとって身につまされるような話になればなるほど、余計な要素が目につくようになり、そういった議論をしなくなるものなのだ。

けれども、やはり、そういった要素、つまりその人物の背景とか、性格(キャラクター)とか、人間性(パーソナリティー)とか、何となくの印象といったようなものは排除して考えるようにしたい。そうした上で考えたい。

ちなみに、お金を貸すと、どうして失敗するのか。例えば、借りるときにはこちらを神様のように言っていた人物が、いざ返す段になると、その途端に悪魔や鬼であるかのようにこちらを罵ってくる。これは本当によく見られることである。けれども、自分の経験がどうだからとか、こういったことはけしからんとかいうことも、一切合財すべて排除して、「なぜ」を考えてみたい。

同様に、純粋に「なぜ?」ということで、では、なぜ人はお金を借りることになるのであろうか?! そんなこと決まっている。お金が足りないからだ。そんなに声が聞こえてきそうである。でも、「じゃあ、なぜお金がないの?!」、もっと現場に即して言えば「収入が高いのに、なぜお金が無いの?!」ということになる。

むろん、お金が無い理由などは、自分たちの生活を見、そして周囲を見渡してみれば、色々と出てくる。そう、浪費家だったとか、お金の管理がきちんとしてきていなかったとか、貯金をする習慣がなかったとか、急な出費があって往生していたとか、そういったものは色々と考えられるのである。いずれにしても、借金を申し込んできた相手というのは、なすべきことをなすのに必要なお金が無かった。返そうと思っても、返せるだけのお金が無かった。要するに、そういうことである。

けれども、それを単純化して一言で言ってしまうと、どういうことか?! そう、新規事業にしろ、突然の出費への対応にしろ、返済ということにしろ、そこに充てられるだけの資産(財産)が無かったと